

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 特定非営利活動法人 神戸定住外国人支援センター

1. 事業の趣旨・目的

外国人に接する機会のあるボランティアを対象に当地域の特徴を踏まえた多文化理解と学習支援の研修会。受講者に自分達の多文化経験や学習支援能力を客観的に見つめてもらい自分のレベルにあった研修会に参加し、自己研鑽に務めてもらう。

2. 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
8月25日	神戸定住外国人支援センター事務所	酒井 滋子 金 宣吉 松本 茜 中野 みゆき 奥 優伽子 (オブザーバー) 宇野 祐子 ド ゴック ティ	研修会の進捗状況	講師依頼の進捗状況とボランティア支援者からの文法講座開設要望について
2月29日	神戸定住外国人支援センター事務所	金 宣吉 志岐 良子 松本 茜 中野 みゆき 奥 優伽子	平成23年度の研修会の報告と反省、来年度の研修計画	研修会の参加者数やアンケートのまとめ、効果があった点や反省点など

【写真】



2012年8月25日

3. 講座の内容について

- (1) 講座名 日本語ボランティア力向上研修会
- (2) 開催場所
 ア 講義 アスタくにつか 4 番館東棟 3F 会議室
アスタくにつか 4 番館東棟 4F 会議室
 イ 実習 アスタくにつか 4 番館東棟 3F 会議室
- (3) 学習目標
 自分の能力を客観的に見つめ、能力に合った研修会に参加し、自己研鑽に励む。
 多文化への理解を深める。
- (4) 使用した教材・リソース
 講師によるレジュメ、資料
- (5) 受講者の募集方法
 ①チラシ（神戸国際協力交流センター、兵庫県国際交流協会、近隣図書館）
 ②当センター発行の機関誌・メールニュース
- (6) 受講者の総数 87 人
 （出身・国籍別内訳 日本 68 人、 韓国 2 人、 カナダ 1 人）
- (7) 開催時間数(回数) 26 時間 （全 13 回）
 講義 16 時間 （ 8 回 ）、実習 10 時間 （ 5 回 ）
- (8) 参加対象者の要件
 日本語を教えている人、講座内容に興味がある人、
- (9) 講座内容

回	開催日時	時間数	受講者数	講座名／学習内容	講師
①	6 月 11 日 15:30～17:30	2 時間	27 人	中国残留邦人帰国者等を理解する／ 中国帰国者の歴史的経緯と現在の課題	神戸大学院・教授 浅野 慎一
②	7 月 9 日 13:30～15:30	2 時間	19 人	日本語学習支援とポートフォリオ／ポートフォリオを使って日本語学習支援をした教室の経験談及びそれを日本語ボランティア活動に試してみるヒント	北九州市立大学 国際教育交流センター・准教授 小林 浩明 福岡大学大学院 下野 純一
③	9 月 10 日 13:30～15:30	2 時間	25 人	年齢の高い人への日本語支援／40 才代以上から語学学習をする際の共通の課題	神戸中国帰国者日本語教育ボランティア協会・コーディネーター

				と支援対策	根津 京子
④	10月8日 10:00～12:00	2時間	24人	日本語ボランティアとは／ 学習者からの経験談と日本語ボランティア活動の成功 や失敗談と心構え	兵庫日本語ボランティアネットワーク 高橋博子 小西タイシア
⑤	10月8日 13:30～15:30	2時間	21人	生活のための基本語とは／ 日本語語彙の特徴と基本的な教え方、学び方のポイント	AOTS 日本語教育センター・上席日本語専門職 神吉 宇一
⑥	11月12日 10:00～12:00	2時間	8人	日本語文法勉強会①／ 「こそあど」「存在文」の文法分析とどう教えるか	神戸YWCA学院・主任講師 斎藤 明子
⑦	11月12日 13:30～15:30	2時間	16人	ベトナム人を理解する／ ベトナム人の来日の歴史的経緯と現在の課題	大阪大学文学研究科・招聘研究員 川越 道子
⑧	12月10日 10:00～12:00	2時間	6人	日本語文法勉強会②／ 「～ています」「は・が」の文法分析とどう教えるか	神戸YWCA学院・主任講師 斎藤 明子
⑨	12月10日 13:30～15:30	2時間	8人	「在日外国人児童の読書の会」と「おはなし会」／外国人児童読書の会から見えてきた外国人児童や家庭の課題	神戸市立新長田図書館・館長 小田原 典子
⑩	1月14日 10:00～12:00	2時間	5人	日本語文法勉強会③／ 授受動詞と仮定形の文法分析とどう教えるか	神戸YWCA学院・主任講師 斎藤 明子
⑪	2月18日 10:00～12:00	2時間	6人	日本語文法勉強会④／ 自動詞と他動詞を使った文型とどう教えるか	神戸YWCA学院・主任講師 斎藤 明子
⑫	3月3日 10:00～12:00	2時間	4人	日本語文法勉強会⑤／ 受身・使役・敬語を使った文型とどう教えるか	神戸YWCA学院・主任講師 斎藤 明子
⑬	3月10日 13:30～15:30	2時間	23人	日本語教育と国語教育の違い／どのような基準で日本語教育と国語教育が区別されているか	神戸市外国語大学国際交流センター・日本語講師 江口 清子



2011 年 12 月 10 日



2012 年 3 月 10 日

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

アンケート 集計表									
実施日:	6月11日	7月9日	9月10日	10月8日	10月8日	11月12日	12月10日	3月10日	
参加者数:	27 名	19 名	25 名	24 名	21 名	16 名	8 名	23 名	
回答者数:	19 名	13 名	13 名	19 名	13 名	9 名	5 名	17 名	
回答率(%):	70.4%	68.4%	52.0%	79.2%		56.3%	62.5%	73.9%	
《設問1: 本日の内容全般について、いかがでしたか》									
たいへん良かった	10	4	2	13	7	7	4	6	
良かった	9	7	10	0	6	6	0	9	
どちらともいえない	0	1	1	2	0	0	0	1	
良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	19	12	13	15	13	13	4	16	
《設問2: どのような点が良かったですか。(複数回答可)》									
役立つ情報が得られた	16	7	6	14	9	4	4	11	
日頃の活動に役立つ	8	7	6	5	10	7	1	11	
スキルアップにつながった	5	2	1	0	4	1	2	6	
他の参加者との交流・情報交換が図られた	0	5	2	3	1	4	1	2	
抱えていた問題・不安の解消につながった	1	0	2	6	0	0	0	3	
計	30	21	17	28	24	16	8	33	
※日本語文法勉強会(11月12日、12月10日、1月14日、2月18日、3月3日)のアンケートはとれませんでした。									

② 実施主体からの研修内容結果評価

今年度は、ポートフォリオの考え方を利用して、日本語ボランティア経験の自己記録をつけ、自己研鑽につなげることをもう一つの目標にしていたが、その意図を理解してくれたのは 1 名ほどであった。ボランティア活動者には自分の軌跡を残し振り返る作業は、自主的には行われにくいと感じた。どうもポートフォリオは学習者が学習の記録をとって、学習の進み具合を自覚してもらうものだと思っているようだ。ボランティア活動者自身も、活動初期から教える力が伸びていき、多文化を受け入れる力も大きくなっていく。それを自覚してもらいかったが、コーディネーターがフォーマットを提供するなどの工夫が必要だったと思う。

研修については、講師の評価もよく日頃疑問に思っていたことをわかりやすく解決に導

いてもらい、明日からでもすぐに役に立つ身近な内容であった。今年度は初めて参加する人も多くおり、テーマや講師の選び方はよかったと思う。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

当センターコーディネーターは、2010 年度の「コーディネーター研修」も受けることができ、その成果として 2011 年度に「短期日本語習得サポート事業」を神戸市から委託され、「生活日本語テキスト～なでしこジャパニーズ」「基本生活語彙 500 音声コンテンツ」などを作成することができた。文型積み上げ式ではなく、必要な場面で必要な行動を達成することを目的に編纂した。(2012.4 以降 神戸市の HP にアップされる予定)

さらに日本語講師と日本語ボランティアがどのように協力していけば、日本語習得に効果がある教室を作り上げられるかということも検討・実践できた。具体的には、日本語習得の項目や内容を考え、教室活動をリードするファシリテーター(日本語講師)と、学習者の横に座って練習相手や個別の質問に答える支援者(日本語ボランティア)との協力体制でクラスを作り上げていく教室で、学習者の満足度や定着率が上がった。

以上のような成果を踏まえ、来年度は生活日本語教室の普及と教室の拡大を神戸市内外にも広げて日本語習得体制を整えていき、安心・安全な生活が送れるよう地域在住の外国人支援を行っていきたいと思う。

日本語講師向けには、留学生向けなどではなく、地域在住の外国人市民を対象とした日本語教育のあり方、聞き覚えで習得し就職などでは適切に使えない日本語習得者を対象とした日本語支援や読み書き・デジタル媒体の使い方の指導などを考えて実践していける力をつけてもらえる企画を考えたい。

日本語ボランティア向けには、これをきっかけに国際化が日本国内でも進んでいること、共生について考えていかなければならないこと、及び在日外国人の事情、世界的情勢の変化と日本の変化の連動性にも目を向けてもらえるような研修を行っていき、周辺からの外国人理解につなげる研修会を行っていきたい。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

定期的な研修を行うことや研修会の内容決定に参加できる体制を作っていることが、日本語ボランティアがモチベーションを下げることなく、日本語教室運営に積極的に携わっていく大きな要因になっている。日本語教室は活動時間がまちまちであるため、ふだんは顔を合わせないボランティアが研修会に集まることによって交流が行えることも日本語支援活動が継続できるための大きな要因のひとつである。

今年度は「中国帰国者を理解する」(6 月 19 日)が、「生活日本語講座(帰国者対象)」開催の布石になったこと、また「ベトナム人を理解する」(11 月 12 日)は、当地域はベトナム人多住地域であるため小学校の先生も参加してくれ、当センターの子ども学習支援や図書館での読み聞かせ事業のパイプ役となってくれたことなど、日本語支援だけではなく幅広く連携できてよかったと思う。

② 研修後の人材活用

日本語ボランティアとして活動している人に対しては、日本語教育のみではなく、外国事情やボランティアとしての心構えなどを研修できたので、視点を広げて支援活動に参加できるようになり、他のボランティアの方にも研修の必要性を伝える役になってくれている。「日本語文法勉強会」は日本語支援にまだ携わっていない人や日が浅い人が対象だったので、その人たちに4月から活動へ参加してもらえるようにしたいと計画している。

(12) 今後の課題

日本語ボランティアに興味を持つ人は多いが、表面的な国際交流や日本語を教えることだけに専念する人がまだまだ多いのが課題である。それに対しては、生活支援やその人の背景などを理解しないのは片寄っていると思うので、必ず、①日本語支援、②どうして日本語支援をしなければならないのか、③どういう人間関係を作っていくかを考えていってもらえるように取り組んでいきたい。

それから日本語ボランティア経験の自己記録をつけ、自己研鑽につなげてもらうことは今年度の目標だったが達成できなかったため、今後はもっと工夫して取り組んでいくことも課題である。